

目次

〈研究シーズ〉

学部学科等		職名	氏名	タイトル	ページ
環境科学部	環境政策・計画学科	講師	堀 啓子	持続可能な社会 - 生態システムの実現に向けた研究	1
	生物資源管理学科	講師	松田 壮顕	農業分野から考える気候変動の緩和策・適応策	2
工学部	材料化学科 (ガラス工学研究センター 兼務)	教授	松岡 純	ガラスの融液物性・熱物性と破壊現象の研究	3
		准教授	山田 明寛		
	ガラス工学研究センター (材料化学科兼務)	講師	西脇 瑞紀	不均一構造を利用した高性能・高機能プラスチックの開発	4
		講師	木田 拓充	不均一構造を利用した高性能・高機能プラスチックの開発	4
機械システム工学科	教授	片山 仁志	サンプル値制御理論の機械システム制御系設計への応用	5	
人間文化学部	生活デザイン学科	講師	大江 由起	生活行為や年齢層に応じた照明環境に関する研究	6
	生活栄養学科	准教授	青木 るみ子	給食施設の衛生管理に関する実態調査 事業所給食の持続的な食環境整備の促進	7
	人間関係学科	准教授	本宮 裕示郎	教養概念を切り口にして教育目的・目標のより良いあり方を考える	8
	国際コミュニケーション学科	准教授	山本 薫	ヨーロッパ現代思想で読む英国小説	9
人間看護学部	人間看護学科	教授	千葉 陽子	妊婦や子育て中の母親のストレスに関する研究	10
		准教授	板谷 裕美	サステナブルな月経用品の普及に貢献する	11
		准教授	川田 陽子	精神科長期入院患者の退院支援に関する継続教育	12
		准教授	小林 孝子	自閉スペクトラム症のある女性が安心して子どもを育てるための支援	13
		講師	大羽 詩織	看護教育と地域で展開される看護	14

〈研究者別 研究分野・キーワード一覧〉

15-18

※SDGs目標別の研究シーズ：次頁からのSDGs目次を参照してください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



生活行為や年齢層に応じた照明環境に関する研究

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部 生活デザイン学科 講師 大江 由起

研究分野 : 建築・住環境、照明環境、色彩環境

高齢社会に直面している昨今、心身ともに健康な状態を可能な限り長く維持することがますます重要視されています。そのなかで、衣食住の一つである「住環境」が果たす役割は大きいです。住環境を考える上で、そこにいるヒトがどのような属性の人で、いつ、どこで、何をしたいのかという点を考慮し、幅広い年齢層の人にとって快適に過ごすことのできる空間づくりの一助となるような研究を照明や色彩環境の観点から考究しています。

■体育館での生活行為に応じた避難所照明¹⁾

日本は世界でも有数の災害大国ですが、現状の避難所では生活空間及び設備に関する整備が必ずしも十分ではないことが多く、照明環境を含め避難所環境全体の改善が重要となっています。

避難所における照明の役割として、安全性の確保、安心感の創出、各生活時間に適した環境の構築が主に挙げられます。しかし、体育館を避難所として利用する場合はこれらの両立が難しく、生活リズムの乱れの一因となります。そこで、避難所利用時の体育館における各生活時間に適した照明環境を把握することを目指して研究を行っています。



■好ましい鑑賞環境を実現するための美術館照明²⁾

美術館展示における快適な絵画鑑賞環境作りには照明が寄与するところが大きいです。作品を保護するために絵画にはアクリル板のような保護ケースが取り付けられていますが、照明がケースに当たることによって反射グレア(眩しさ)が生じることは絵画鑑賞の妨げとなります。しかし、反射グレアを防ぐための照明設計手法が国内外ともに確立されていないのが現状です。

そこで、館内全体を照らす全般照明と絵画を照らすスポット照明のバランス(位置や光量)と反射グレアの関係について研究しています。美術館は幅広い年齢層の人が利用する空間であるため、若齢者に比べ、眩しさを感じやすい高齢者にも配慮した快適な鑑賞環境形成の一助となることを目指したいと考えています。



<共同研究等の状況>

1) 富山大) 秋月教授・東京理科大) 吉澤教授・国土交通省 国総研) 山口氏との共同研究

2) 科研費22K13009,東京理科大) 吉澤教授・千葉大) 溝上教授・国立西洋美術館) 高嶋氏との共同研究

給食施設の衛生管理に関する実態調査 事業所給食の持続的な食環境整備の促進

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部 生活栄養学科 准教授 青木 るみ子

研究分野 : 給食経営管理、衛生管理、調理科学、健康教育

給食施設では、衛生・安全管理の業務内容だけでも未整理な部分が多く、慣習が優先されることもあり、各施設の対応には「差」が確認されています。また、給食現場の人手不足は深刻で、円滑で安全な給食業務への妨げとなっています。

現在進めている研究は、これら給食の生産・提供現場で課題となっている点に着眼し、実務に就く栄養士・管理栄養士の業務内容の整理や改善へ寄与することを目的としています。

■衛生管理に関する研究（テーマ1）

①中小規模給食施設における衛生管理の実態調査

厚労省公表の衛生行政報告をもとに国内の食中毒発生状況を整理した結果、給食施設食中毒の多くが中小規模給食施設で占められており、またその半数が高齢者施設および保育所（園）であることが明らかとなりました。この結果を受け、特定地域の当該種類の施設に対して衛生管理の実態調査を実施しました。調査の結果、衛生管理上の顕著な不備が認められ、特に保育所（園）でその頻度が高い傾向にありました。今後は調査地域を拡大し、より詳細な実態把握を行います。

②学校給食における異物混入防止対策に関する調査・研究

学校給食の現場での異物混入事件は毎年確認されています。ある地域では1年間で6回の発生が記録されています。異物混入への対策としては、各自治体で「異物混入防止対策マニュアル」が独自に作成されていますが、整備されていない自治体も存在します。このような現状から、異物混入防止対策マニュアルの整備状況の調査を進めています。

■生産管理・品質管理に関する研究（テーマ2）

レディフードシステムへのフマル酸製剤『DF30』の応用

本研究に用いるDF30は、食品加工における消毒・殺菌工程への利用目的で製造された殺菌剤です。従来、食品の殺菌工程には次亜塩素酸ナトリウムを用いられませんが、次亜は安価で、取り扱いが簡便である反面、塩素臭残存などの問題が指摘されています。一方、『DF30』は、安定した殺菌力をもつと同時に、使用時の食品への影響が少ない殺菌剤です。また、生鮮食品の日持ち向上などの効果が報告されています。

これらの特徴に着目し、本研究では給食施設における下処理段階の消毒・殺菌工程にDF30を用い、さらにレディフードシステムの調理工程（真空調理）に適用しその有用性を検討しています。

■給食施設利用者の健康増進に寄与する食環境整備（テーマ3）

事業所給食におけるスマートミール普及に関する調査・研究

近年の企業では人的資源である従業員の健康管理に投資する健康経営に力を入れており、将来の業績向上につながる経営戦略をたて、企業価値向上を目指しています。さらに社会的な動きが進み健康経営優良法人認定制度が発足し、「従業員の健康管理を経営的な視点で考えて戦略的に取り組んでいる法人」への評価が始まりました。この制度の評価項目の一つには、「食生活改善に向けた具体的な支援」があり、第三者認証を受けた健康に配慮した食事を社員食堂で提供することが求められます。この食事がスマートミールです。

我々は、社員食堂におけるスマートミールの普及促進に向けての様々な調査・分析を行っております。



<共同研究等の状況>

- ・勤労者の健康の維持・増進に寄与する事業所給食の規模別、提供システム別にみた食事と栄養管理の評価（テーマ3；日本給食経営管理学会指定研究）
- ・レディフードシステムへのフマル酸製剤『DF30』の応用（テーマ2；他大学および企業との共同研究）
- ・「道の駅こうら」（滋賀県甲良町）との地域連携事業

教養概念を切り口にして 教育目的・目標のより良いあり方を考える



人間文化学部 人間関係学科 准教授 本宮 裕示郎
研究分野：教育方法学、教養論、学力論

教養概念を切り口にして、理論と実践の両面から学校教育における教育目的・目標のより良いあり方について考えています。これまでは、教養（culture）をめぐって19世紀イギリスで展開された自由教育（liberal education）論争を対象にして理論的な研究を行ってきました。今後は、戦後の日本で主張された国民的教養論を対象にして教養概念の価値を考えていく予定です。また、実践的な研究としてカリキュラム設計や授業づくりに関する共同研究を学校現場と行っています。

■教養概念に関する理論的な研究

これまでは、19世紀イギリスでの論争をもとに、幅広く知識を得ることと人格形成の関係を問うことによって、教養概念の価値を考えてきました。当時、価値が認められつつあった科学教育を推進する立場と、伝統的に重視されてきた文学教育を擁護する立場の間で自由教育論争が展開されました。特に、科学教育推進派 T. H. ハクスリーと文学教育擁護派 M. アーノルドという二人の代表的な論者の思想を手がかりにして、幅広い知識を得ることと人格形成の関係を科学と文学という切り口から模索してきました。

今後は、戦後初期から1970年代にかけて教育学者によって展開された国民的教養論を検討することによって、教養概念の価値を考えていく予定です。戦後、エリート学生文化としての教養主義の背後で、勝田守一や堀尾輝久ら教育学者は、誰もが教養を身につけることを求め、国民的教養や全面発達といった言葉を旗印にして、学校教育を土台とする教養論を展開していました。当時の教育・社会状況や、大正教養主義などの戦前の教養論と結びつけながら、教養の目的（何のために）と内容（何を）に着目して国民的教養論を検討していきます。

■教育目的・目標に関する実践的な研究

カリキュラム設計や授業づくりに関する共同研究を学校現場と行ってきました。兵庫県立尼崎小田高等学校との共同研究では、科学的な探究活動で培われる汎用的スキル（コミュニケーション能力など）を評価するルーブリックを作成しました。また、カリキュラム設計の理論であり近年注目を集めている逆向き設計論に関して、大阪府大阪市立本田小学校と共同研究を行い、その成果をまとめたガイドブックの作成に携わりました。今後も、理論的な研究での成果を踏まえて、学校現場との共同研究を行い、理論と実践の両面から教育目的・目標のより良いあり方について考えていく予定です。



ヨーロッパ現代思想で読む英国小説



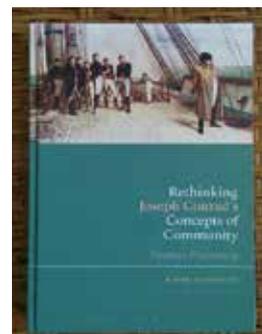
人間文化学部 国際コミュニケーション学科
准教授 山本 薫

研究分野：英文学、英国小説、ヨーロッパ現代思想

概要：映画『地獄の黙示録』の原作『闇の奥』の作者である英国の小説家ジョウゼフ・コンラッド（1857-1924 ウクライナ生まれのポーランド人で仏を経由して渡英）の作品は伝統的に海洋冒険小説や心理小説として読まれてきましたが、ヨーロッパの現代思想の知見をてがかりにして、「英文学」の枠を超えたコンラッド作品の新しい解釈を試みています。

①コンラッド晩年の歴史小説の再評価と翻訳

長く忘れ去られていたコンラッド晩年の歴史小説を現代ヨーロッパの思想の新しい「共同体」や「歓待 (hospitality)」(=他者の受け入れの問題) という観点から読み直し再評価しました。研究成果 Rethinking Joseph Conrad's Concepts of Community は『ハリー・ポッター』で知られる英国の出版社ブルームズベリー社から2017年に出版され、英国オックスフォード大学出版局の学術誌English誌、米『ポーランド・レビュー』誌その他学術誌上に好意的な書評が掲載されています。



②コンラッド晩年の歴史小説The Rover (1923) の翻訳

幻戯書房による多種多様な世界文学のシリーズ〈ルリユール叢書〉の一冊として、コンラッド晩年のナポレオン小説の翻訳『放浪者あるいは海賊ペロル』を2022年に出版しました。この作品はコンラッドの作品としてはほとんど知られておらず、これまで日本語に訳されていませんでした。アメリカのコンラッド協会会報Joseph Conrad Todayでも初の日本語訳として紹介されました。



③コンラッドの政治小説、高橋和久訳『シークレット・エージェント』(光文社古典新訳文庫 2019) 解説

コンラッド中期の政治小説The Secret Agent (原作1907出版) は、1894年に起きたロンドンのグリニッジ天文台爆破未遂事件をもとに書かれた爆破テロの物語で、2001年に起きたアメリカ同時多発テロ事件 (9.11) 以降は爆破テロ小説の古典と言われたりします。

現在引き続きコンラッド文学の新しい解釈を国際学会で発表しながら、彼の傑作や伝記などを日本語に訳しています。



<特許・共同研究等の状況>

上記の研究は、すべて日本学術振興会科学研究費の助成を受けています。

採択課題

- * 「ジョウゼフ・コンラッド晩年の具象への回帰—パウル・クレーの境界線の美学をたよりに」
科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2019年04月～2023年03月 (課題番号:19K00451)
- * 「コンラッドとマグリットにおける『狂気』と『赦し』:コンラッド初期小説群の再評価」
日本学術振興会 科学研究費 平成28年度 基盤研究 (C) (課題番号:16K02457) 2016年04月～2019年03月
- * 「共同性なき共同体」の可能性: ジョウゼフ・コンラッド後期作品の再考
科学研究費補助金 基盤研究 (C) (課題番号: 24520301) 2012年04月～2016年04月

【滋賀県立大学 研究者一覧】

研究者別 研究分野・キーワード一覧

学部学科等	職名	氏名	研究分野・キーワード	
環境科学部	環境生態学科	教授	伴 修平	水圏生態学、プランクトン生態学
		教授	大堀 道広	地震工学、強震動、微動、津波、防災
		教授	丸尾 雅啓	水圏化学、分析化学
		教授	浦部 美佐子	陸水生物学、生態、底生動物、寄生虫、分類
		教授	後藤 直成	陸水学、環境科学、生物地球化学、物質循環
		准教授	野間 直彦	植物生態学
		准教授	吉山 浩平	理論生態学
		准教授	堂満 華子	古環境学、微生物学（浮遊性有孔虫）
		准教授	細井 祥子	環境微生物学、分子微生物学
		准教授	尾坂 兼一	森林水文学 生物地球化学
		講師	籠谷 泰行	森林生態学
		講師	肥田 嘉文	環境科学、影響評価科学
		講師	荒木 希和子	植物生態学、分子生態学、環境応答
	講師	上藤 慎治	大気科学、大気汚染物質、環境動態、発生源解析	
	環境政策・計画学科	教授	上河原 献二	環境法、環境政策、地球環境条約制度、自然保護制度、外来水生植物管理
		教授	高橋 卓也	環境経営、森林政策・計画
		教授	香川 雄一	環境地理学、都市社会地理学、政治地理学
		教授	村上 一真	環境経済学、開発経済学、環境政策論、地域経済・政策論
		教授	瀧 健太郎	流域政策・計画、EcoDRR、グリーンインフラ、防災・減災
		准教授	林 宰司	環境経済学、環境政策
		准教授	和田 有朗	環境政策、環境計画、環境システム、地域システム
		准教授	平岡 俊一	持続可能な地域づくり、市民参加・協働、NPO、環境社会学
		准教授	平山 奈央子	湖沼流域ガバナンス、水資源管理、住民参加
		講師	吉川 直樹	環境システム学、ライフサイクルアセスメント
		講師	堀 啓子	環境工学、社会・生態システム
	環境建築デザイン学科	教授	陶器 浩一	建築設計、構造計画
		教授	村上 修一	ランドスケープデザイン、景観計画
		教授	高田 豊文	建築構造学 応用力学 木質構造 地震防災
		教授	芦澤 竜一	環境建築学
		准教授	金子 尚志	都市・建築環境設計、パッシブデザイン、クリマデザイン（室内気候のデザイン）
		准教授	ヒメネス ヘルデホ ホアン ラモン	建築史・意匠 都市計画・建築計画
		准教授	轟 慎一	都市計画、地域計画、都市政策、地域環境デザイン、景観論、集落論、生活空間論
		准教授	川井 操	都市史、建築計画
講師		迫田 正美	建築歴史・意匠、建築空間論	
講師		高屋 麻里子	日本建築史、都市史	
講師		鄭 新源	建築環境工学、建築環境設備、環境性能評価、環境心理	
講師	永井 拓生	建築構造、構造力学、数値解析、自然素材、建築保存・再生		
生物資源管理学科	教授	須戸 幹	環境化学	
	教授	杉浦 省三	魚類栄養学、養魚飼料学、水産増養殖	
	教授	泉 泰弘	作物学、栽培学	
	教授	原田 英美子	植物科学、重金属、水生植物、伊吹山	
	教授	入江 俊一	応用微生物、分子生物、バイオマス変換、リグニン、木質バイオマス	
	教授	高倉 耕一	個体群生態学、行動生態学	
	准教授	岩間 憲治	土壌物理学、灌漑排水学、GIS（地理情報システム）	
	准教授	上町 達也	園芸学	
	准教授	清水 顕史	植物遺伝育種学	
	准教授	増田 清敬	LCA、環境経済学、農業経済学	
	准教授	皆川 明子	生態工学、農業土木	
	准教授	泉津 弘佑	植物病理学	
	講師	飯村 康夫	土壌学	
	講師	畑 直樹	蔬菜園芸学、植物工場	
	講師	中川 敏法	反芻家畜、飼料開発、未利用資源、家畜飼養学、飼料開発学、動物栄養学	
	講師	住田 卓也	植物病理学	
	講師	加藤 恵里	獣害対策、農村ホスピタリティ、農山村、コミュニティ、自然、地域資源、地域振興、野生動物管理	
	講師	松田 壮頭	灌漑排水学、土壌水文学、農業気象学、農業環境工学	

研究者別 研究分野・キーワード一覧

学部学科等	職名	氏名	研究分野・キーワード	
工学部	材料化学科	教授	仲村 龍介	金属材料
		教授	松岡 純	ガラス科学、熱物性、力学特性、無機材料
		教授	奥 健夫	エネルギー環境材料、光、量子情報、エネルギー、太陽電池
		准教授	宮村 弘	金属材料学、金属間化合物、表面処理
		准教授	山田 明寛	無機材料
		准教授	秋山 毅	エネルギー環境材料
		講師	西脇 瑞紀(兼務)	無機材料
		講師	鈴木 厚志	エネルギー環境材料 太陽電池 量子コンピューター
		教授	徳満 勝久	有機複合材料、高分子物性
		教授	金岡 鐘局	高分子精密合成、高分子機能
		教授	北村 千寿	有機環境材料、有機化学
		准教授	竹下 宏樹	高分子構造、高分子物性
		准教授	谷本 智史	高分子機能設計、ブロックポリマー、相分離、ミセル、ペプチド、吸着、表面、界面、微粒子、バイオミネラリゼーション、キチン・キトサン、貴金属イオン
		准教授	加藤 真一郎	構造有機化学、超分子化学、物理有機化学
		講師	木田 拓充(兼務)	高分子物性、高分子構造、分光測定
		講師	伊田 翔平	高分子合成、精密合成、リビング重合、高分子ゲル
	講師	竹原 宗範	生体機能材料、応用微生物学、遺伝子工学、生物工学、有機環境材料	
	機械システム 工学科	教授	山根 浩二	内燃機関、バイオディーゼル、燃焼、ディーゼル噴霧、油化学
		教授	南川 久人	流体工学、混相流工学、気泡工学、ファインバブル
		教授	奥村 進	ライフサイクル工学、品質設計、メンテナンス工学
		教授	門脇 光輝	偏微分方程式論、特に数学的散乱理論
		教授	呉 志強	振動工学、計算工学、振動、共振、形状最適化、最適設計、FEM解析
		教授	片山 仁志	制御工学、制御理論、システム工学
		教授	田邊 裕貴	材料強度学、破壊力学、表面改質、非破壊検査
		准教授	山野 光裕	ロボット工学、メカトロニクス、機械制御
		准教授	橋本 宣慶	生産加工学、人間工学、人工現実感
		准教授	河崎 澄	エネルギーと動力、燃焼工学、内燃機関
		准教授	安田 孝宏	流体工学、流体騒音
		准教授	大浦 靖典	機械ダイナミクス、振動工学
		准教授	和泉 遊以	材料強度学、破壊力学、表面改質、非破壊検査
		講師	西岡 靖貴	アクチュエーター、ソフトメカニクス、空気圧制御システム
	講師	田中 昂	機械力学、振動工学、構造ヘルスマニタリング	
	講師	出島 一仁	熱工学、伝熱工学、MEMS	
	電子システム 工学科	教授	柳澤 淳一	デバイス工学、半導体プロセス工学、イオンビーム工学
		教授	岸根 桂路	集積システム、超高速通信システム、アナログ・デジタル混載集積回路、センサシステム
		准教授	一宮 正義	デバイス工学、光物性、超高速分光
准教授		土谷 亮	集積回路、アナログRF回路、低消費電力技術	
講師		井上 敏之	集積回路、無線通信、光ファイバ無線	
講師		番 貴彦	半導体デバイス、記憶素子、ナノ粒子、2次元材料	
教授		乾 義尚	パワーエレクトロニクス、電力工学、エネルギー変換、燃料電池	
教授		作田 健	センシング工学、磁気計測、磁気センシング応用	
准教授		坂本 眞一	未利用エネルギー、創エネルギー、環境発電、熱音響、超音波、時系列解析	
准教授		小林 成貴	走査型プローブ顕微鏡、表面・界面科学	
講師		平山 智士	電磁流体力学、プラズマ工学	
教授		酒井 道	メタマテリアル科学、プラズマ理工学	
教授		砂山 渡	データマイニング、知能情報工学、教育工学	
准教授		宮城 茂幸	デジタル信号処理、画像処理、時系列解析	
准教授		服部 峻	ウェブ知能、時空間DB、ゲーム情報学	
講師		榎本 洸一郎	画像工学、システム情報科学、農林水産業、実応用	
ガラス工学 研究センター	教授	松岡 純(兼務)	ガラス科学、熱物性、力学特性、無機材料	
	准教授	山田 明寛(兼務)	無機材料	
	講師	西脇 瑞紀	無機材料	
	講師	木田 拓充	高分子物性、高分子構造、分光測定	

研究者別 研究分野・キーワード一覧

学部学科等	職名	氏名	研究分野・キーワード
地域文化学科	教授	市川 秀之	日本民俗学
	教授	亀井 若菜	日本美術史
	教授	京樂 真帆子	平安京、都市社会史、女性史
	教授	東 幸代	日本近世史
	教授	佐藤 亜聖	考古学、文化財科学、歴史学
	教授	塚本 礼仁	人文地理学
	教授	石川 慎治	保存修景、建築史
	准教授	萩原 和	景観まちづくり、都市農村における地域計画
	准教授	横田 祥子	社会人類学、宗教人類学、地域研究
	准教授	櫻井 悟史	歴史社会学、文化社会学、犯罪社会学、日本近現代史
	准教授	金 宇大	世界遺産学、アジア考古学
	講師	木村 可奈子	東アジア国際関係史
	講師	高木 純一	日本中世史、村落史
	生活デザイン学科	教授	印南 比呂志
教授		横田 尚美	服飾文化史、西洋服装史、日本洋装史
教授		森下 あおい	服飾デザイン、被服構成学
教授		藤木 庸介	建築計画、伝統的居住文化の維持・保全、都市計画、家政・生活学一般、自律的観光
准教授		佐々木 一泰	空間デザイン、建築デザイン、構法研究、建築史・意匠、家政・生活学一般
准教授		山田 歩	行動経済学、ナッジ、消費者心理学、マーケティング
講師		徐 慧(ソ-ヘ-)	視覚伝達デザイン、グラフィックデザイン、イラストレーション、ブランディング
生活栄養学科	講師	大江 由起	建築・住環境、照明環境、色彩環境
	教授	矢野 仁康	病態栄養学、分子細胞生物学
	教授	中井 直也	運動栄養学
	教授	辰巳 佐和子	臨床栄養学、腎臓内科学、骨代謝学
	教授	福渡 努	栄養神経科学、栄養生理学、食品機能学 食品、栄養、代謝
	准教授	佐野 光枝	食品学、栄養生化学、分子栄養学、発生生物学、食生活学
	准教授	青木 るみ子	給食経営管理、衛生管理、調理科学、健康教育
	准教授	遠藤 弘史	病態栄養学、分子細胞生物学
	准教授	今井 絵理	公衆栄養学、栄養疫学、応用栄養学、食生活学
	准教授	東田 一彦	運動生理・生化学、スポーツ栄養学
	准教授	桑原 頌治	栄養学、臨床栄養学、腎臓内科学
	講師	安澤 俊紀	栄養学、病態生理学、臨床栄養学
	講師	畑山 翔	基礎栄養学、食品微生物学
	講師	田中 大也	病態栄養学、分子細胞生物学
人間関係学科	教授	高梨 克也	コミュニケーション科学、身体動作学
	教授	松嶋 秀明	臨床心理学
	教授	上野 有理	発達心理学、比較認知科学、霊長類学
	教授	丸山 真央	地域社会学、都市社会学
	准教授	大野 光明	歴史社会学、社会運動論、社会運動史、沖縄、軍事化、「戦後」史
	准教授	杉浦 由香里	教育学、教育史
	准教授	本宮 裕示郎	教育方法学、教養論、学力論
	准教授	原 未来	若者支援、ひきこもり、青年期教育
	講師	中村 好孝	社会学（社会学史、障害者福祉）
	講師	谷口 友梨	社会心理学、実験心理学
国際コミュニケーション学科	教授	棚瀬 慈郎	文化人類学、チベット学、チベット地域研究
	教授	呉 凌非	言語処理・言語学
	教授	ジョン リビー	英語
	教授	ボルジギン ブレンサイン	社会史、現代中国研究、モンゴル研究
	教授	吉田 悦子	言語学、談話分析、語用論
	准教授	山本 薫	英文学、英国小説、ヨーロッパ現代思想
	准教授	吉村 淳一	ドイツ語学
	准教授	河 かおる	朝鮮近代史
	准教授	マーティン ホークス	留学英語対策講座
	准教授	中谷 博美	認知言語学、語用論、英語教育
講師	間 永次郎	社会思想史、南アジア地域研究、ポストコロナ論、宗教学	
講師	岡本 夢子	フランス文学、フランス語圏文化、文学社会学	

人間文化学部

研究者別 研究分野・キーワード一覧

学部学科等	職名	氏名	研究分野・キーワード		
人間看護学部	人間看護学科	教授	伊丹 君和	基礎看護学、基礎看護技術、看護教育、教育学	
		教授	越山 雅文	産婦人科学、母性看護・助産、女性の健康・周産期ケア、浮腫診断・治療、子宮頸がんの診断・予防	
		教授	坪井 宏仁	心身医学、精神神経免疫学、国際保健	
		教授	本田 可奈子	救急看護、看護教育、看護管理	
		准教授	米田 照美	基礎看護学、看護管理学、医療安全教育、危険認知、視線計測、看護者（看護学生・看護師）	
		講師	関 恵子	基礎看護学、基礎看護技術、医療福祉工学	
		講師	千田 美紀子	基礎看護学、看護教育	
		教授	古株 ひろみ	臨床看護学、小児看護、家族看護	
		教授	千葉 陽子	生涯発達看護学 助産学	
		准教授	板谷 裕美	母性看護・助産学、ウィメンズヘルス、助産ケア、母乳育児、助産師のキャリア発達支援	
		准教授	川端 智子	小児看護、子どもと喫煙、未成年の喫煙防止教育、NICU	
		准教授	古川 洋子	地域看護学、母性看護学、助産学、いのちの教育、産み育て支援、社会的養護	
		講師	子安 恵子	母性看護学、助産学	
		講師	玉川 あゆみ	地域看護学、小児看護学、発達障害児の外来受診、家族支援	
		講師	松原 千晴	母性看護学、助産学	
		講師	渡邊 友美子	母性看護学、助産学、生涯発達看護学	
		教授	糸島 陽子	エンドオブライフケア、成人看護学、生命倫理	
		教授	岡本 紀子	高齢看護学、感染予防、地域看護学	
		教授	横井 和美	臨床看護学、基礎看護学、慢性期の看護、看護管理	
		准教授	荒川 千登世	臨床看護学、成人看護学、急性期ケア、回復期ケア、看護教育	
		講師	生田 宴里	臨床看護学、クリティカルケア看護、成人看護学	
		講師	岡崎 瑞生	看護学、老年看護学、生活の質	
		講師	小野 あゆみ	成人看護学、慢性期ケア、肝疾患患者の看護	
		講師	片山 将宏	成人看護学、慢性疾患看護、脳血管障害、外来看護	
		講師	喜多下 真里	成人看護学、がん看護、緩和ケア	
		講師	中川 美和	成人看護学、慢性期ケア、糖尿病患者の看護	
		講師	松井 宏樹	老年看護学	
		教授	新井 香奈子	在宅看護学、老年看護学、地域看護学	
		教授	牧野 耕次	生涯発達看護学、精神看護学、かかわり、巻き込まれ、involvement	
		准教授	川田 陽子	精神看護、専門看護師実践	
		准教授	小林 孝子	公衆衛生看護学、母子保健	
		准教授	馬場 文	公衆衛生看護学、児童虐待防止対策	
		准教授	森本 安紀	在宅看護学、民俗学	
		講師	大羽 詩織	看護小規模多機能型居宅介護、多胎児支援、看護教育	
		講師	川口 恭子	公衆衛生看護学、保健師活動、ひきこもり、家族支援	
		講師	國丸 周平	在宅看護学、成人看護学、意思決定支援	
		講師	下通 友美	精神看護学	
		全学共通教育推進機構	准教授	坂本 輝世	外国語教育論、ライティング教育
			講師	サンフォ ジャンパティスト	教育開発、教育品質
			講師	真島 アマンダ	英語教授法、応用言語学
			講師	近藤 佑樹	アメリカ文学、アメリカ文化
		地域共生センター	教授	鵜飼 修	都市計画・建築計画、地域研究、地域計画、地域活性化、環境共生まちづくり、コミュニティ・ビジネス
			講師	上田 洋平	地域学、地域文化学
地域ひと・モノ・未来 情報研究センター	准教授	杉山 裕介	偏微分方程式		

※詳しい研究者情報は、ホームページ (<http://db.spins.usp.ac.jp/>) をご覧ください。

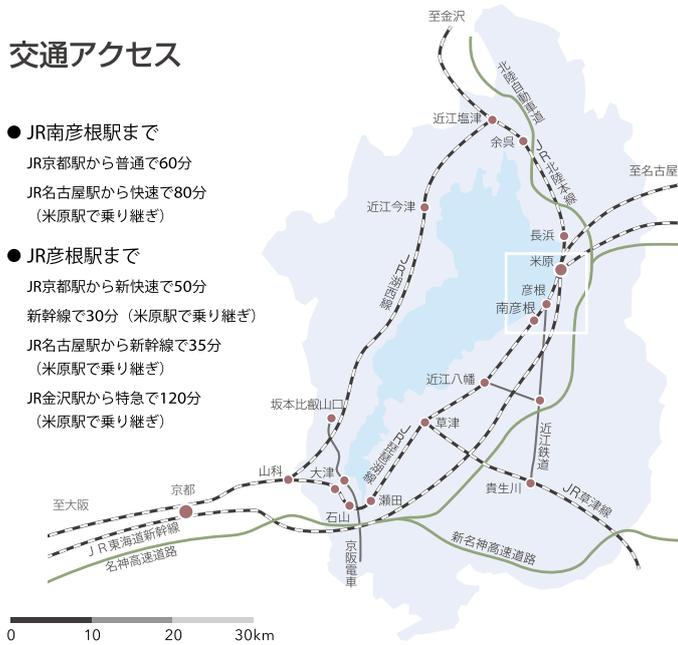
交通アクセス

● JR南彦根駅まで

JR京都駅から普通で60分
JR名古屋駅から快速で80分
(米原駅で乗り継ぎ)

● JR彦根駅まで

JR京都駅から新快速で50分
新幹線で30分 (米原駅で乗り継ぎ)
JR名古屋駅から新幹線で35分
(米原駅で乗り継ぎ)
JR金沢駅から特急で120分
(米原駅で乗り継ぎ)



大学周辺マップ

● JR南彦根駅から大学まで

バスで15分 (南彦根駅西口：南彦根県立大学線)
タクシーで10分

● JR彦根駅から大学まで

バスで25分 (彦根駅：三津屋線)
タクシーで15分

● 名神彦根ICから大学まで

車で20分 (6.5km)



大学構内図



公立大学法人滋賀県立大学 産学連携センター

〒522-8533

滋賀県彦根市八坂町 2500

TEL:0749-28-8604/8610 FAX:0749-28-8620

E-mail: sangaku@office.usp.ac.jp

ホームページ : <https://www.usp.ac.jp/chiikisangaku/center/>